

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
東京記念	2018/9/19	SI	大井	2400m	スローペース	稍重	長距離実績

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ダイリュウハヤテ	牡5	56	矢野	アジュディケーティング	ノーザン系	ダンスインザダーク	サンデー系	D	B	B	C	C	C		
	2	ステージンパクト	牡6	56	五十嵐	ヴァーミリアン	ミスプロ系	エリシオ	ノーザン系	C	B	B	B	B	B	×1	
2	3	マイネルリボーン	牡8	56	青柳	ローズズインメイ	ヘイロー系	スキャン	ミスプロ系	D	B	B	C	C	C		
	4	シェテルングランツ	牡7	56	的場文	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	C	B	B	C	B	C	×3	
3	5	キングニミツ	牡5	56	石崎駿	スパイクユール	サンデー系	Kingmambo	ミスプロ系	C	C	B	B	B	B	△2	
	6	カツゲキキトキト	牡5	56	大畑	スパイクユール	サンデー系	キングカメハメハ	ミスプロ系	A	B	A	B	A	B	○	
4	7	ユーロビート	セ9	56	吉原	スズカマンボ	サンデー系	エリシオ	ノーザン系	C	A	B	B	B	B	△3	
	8	クラージュドール	牡8	56	森	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	B	A	A	B	A	B	◎	
5	9	ストロングサウザー	牡7	56	山本政	ハーツクライ	サンデー系	Lear Fan	ロベルト系	C	B	B	B	B	B	×2	
	10	カムル	牡4	56	左海	サマーバード	ミスプロ系	Star de Naskra	ナスルーラ系	C	B	B	B	B	C		
6	11	スギノグローアップ	牡5	56	真島	マンハッタンカフェ	サンデー系	ブライアンスタイル	ロベルト系	D	B	B	B	C	C		
	12	エスケイアリュール	牡7	56	田中力	ゴールドアリュール	サンデー系	Distorted Humor	ミスプロ系	D	C	C	D	D	D		
7	13	チュダー	セ5	56	木之前	アドマイヤムーン	ミスプロ系	ボストンハーバー	ナスルーラ系	D	C	D	D	D	D		
	14	サブノクロヒョウ	牡5	56	笹川	ローズズインメイ	ヘイロー系	カコイシース	アリダー系	C	B	A	B	B	B	▲	
8	15	ペイシャゴンジゼ	牡7	56	本田	ストーミングホーム	ミスプロ系	ラストタイクーン	ノーザン系	D	B	C	C	C	C		
	16	ウマノジョー	牡5	56	御神本	ウイングアロー	ノーザン系	エンドスウィープ	ミスプロ系	B	A	B	C	B	B	△1	

隊列図	見解	ラップタイム
シユテ サブノ カンム カツゲ スギノ ストロ キング ペイシ クラー ステ ウマノ ユーロ ダイリ チェダ エスケ マイネ	大井の名物長距離重賞・東京記念。昨年まではSIIの格付けだったが、今年からSIに昇格。1着賞金も2200万→3200万にアップし、今年は例年以上に多士済々なメンバーがそろったといえる。長距離重賞のポイントは、とにかくリピーター色が強いこと。JRAでいえば、トウカイトリック、デスベラード、アルバートなどが同一重賞でたびたび好走。この東京記念でもウエノマルクン、ルースリンド、マズルプラストラが複数年に渡って好走しており、同一重賞の好走歴はもちろん、過去に長距離重賞で結果を残していれば、それは大きなアドバンテージになる。今年も過去の好走歴or長距離実績を重視しつつ、全体的に能力差がそこまではないので、展開に恵まれそうな馬から入っていききたい。それでは予想にいきましょう。 本命は クラージュドール が堅実駆けのはず。戦績を振り返れば、長距離重賞では常に安定した成績を残している馬。特に評価したいのは今年の金盃のパフォーマンス。鞍上の森騎手が上手く誘導したとはいえ、早めに抜け出すと2着ウマノジョー以下を寄せ付けずの完勝。(以下省略)	回顧 次走狙い馬
スローペース		

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ダイリュウハヤテ		2走前のトゥインクルバースデー賞を見る限り、一級線相手では分が悪い。		
	2	ステージインパクト	×1	昨年の道営記念勝ち馬でいかにもスタミナ豊富なイメージ。門別のこの路線はモズオトコマエ@イヌワシ賞の勝ちっぷりを見てもレベルが高い。人気は意外となさそうだが、ストロングサウザーよりは人気を考えても面白いのではないかな。		
2	3	マイネルリボーン		前走イヌワシ賞では門別A4を勝ち上がったばかりのモズオトコマエに全く歯が立たず。南関東重賞では荷が重い。		
	4	シュテルングランツ	×3	前走東京記念トライアルは鮮やかな逃げ切り勝ちだったが、鞍上の的場騎手も述べている通り、すべてが上手くいった印象。今回は逃げて4コーナーで外から被される形になるはずで、易々と逃がしてもらえないだろう。中途半端に売れるなら評価を下げたい。		
3	5	キングニミッツ	△2	馬群の内から捌いてこそこのタイプで、内目の枠を引けたのは大きなプラス。昨年の東京記念3着、今年の金盃3着の走りを見ると、さすがに勝ち負けは難しいかもしれないが、自分の能力を出し切れる条件は整ったので、馬券圏内のチャンスなら十分にあるだろう。		
	6	カツゲキキトキト	○	その昨年は逃げて他馬の目標になる厳しい競馬。鞍上の大畑騎手の経験のなさが出たようなレースで、ダートグレードでたびたび好走しているのだから決して力負けではないだろう。今回はシュテルングランツが行くことで自動的に控える形になりそう。ロスなく立ち回れる枠順も魅力的だ。		
4	7	ユーロビート	△3	17年ダイオライト記念2着以降、馬券圏内に加われていないが、2走前の大井記念ではリッカルド、サブノクロヒョウ、ヒガシウィルウィンに次ぐ4着に健闘。ピーク時と比べると、やや物足りなさは残るものの、得意の長距離戦で地方馬同士のレースなら馬券圏内に加わっても不思議ではないかな。		
	8	クラージュドール	◎	戦績を振り返れば、長距離重賞では常に安定した成績を残している馬。特に評価したいのは今年の金盃のパフォーマンス。鞍上の森騎手が上手く誘導したとはいえ、早めに抜け出すと2着ウマノジョー以下を寄せ付けずの完勝。能力+長距離適性で一歩リードしているといっていいたいだろう。		
5	9	ストロングサウザー	×2	前走立秋特別はストレスが全くなく、調教のようなレースだったので、今回のレースに向けて参考にはならないが、クラージュドールやシュテルングランツの活躍を見る限り、本馬が南関東重賞で好走しても驚けないかな。		
	10	カンムル		長期休養明け後の2戦が案外過ぎる内容。良くなるにはまだ時間がかかりそうで、ガラリイ姿を望むのは酷では。		
6	11	スギノグローアップ		前走東京記念トライアルは1~3着馬とは斤量4キロ差のアドバンテージがありながら完敗。今回は他馬と同斤量。上位争いまでは難しいのでは。		
	12	エスケイアリュール		近走はA2で苦戦中。距離延長は歓迎も能力的に重賞では足りないのでは。		
7	13	チュダー		笠松A3を勝ち上がったばかりの馬。ここは参加するだけだろう。		
	14	サブノクロヒョウ	▲	その昨年は15頭立ての12番人気、単勝123.2倍での激走だったが、今振り返れば、長距離への適性が非常に高く、決してフロックではなかった感じ。被されずにスムーズな先行策を打てるかどうか重要なので、外目の枠を引けたのはこの馬にとってプラスだろう。		
8	15	ペイシャゴンジゼ		前走東京記念トライアルは勝ち馬シュテルングランツから1.8秒差の8着に完敗。近走は転入後と比べて明らかにトーンダウンしている。前走で敗れた馬が多数出走しているなら上位争いは難しいだろう。		
	16	ウマノジョー	△1	今年の金盃の内容から能力的にはクラージュドールと五分五分。問題は16番ゲートからどう捌くか。大井2400mはスタート後にすぐコーナーがあるので、この枠だとほぼ最後方に近い位置取りになりそう。いくら能力、長距離適性で評価できてても外々を回られるロスは大きいだろう。		